

いばらき建設技術研究会 第2回運営委員会議事録

平成17年10月5日(水)15:00～
於:茨城大学インフォメーションセンター
(水戸市三の丸 旧県庁舎)

1. 出席運営委員氏名

茨城建設コンサルタントグループ(市毛 千秋、寺田剛)
地質調査グループ(岩野 宏幸、伴 夏男)
造園グループ(川上 一夫)
大学グループ(安原 一哉、呉 智深、神子直之、桑原 祐治)
建設コンサルタントグループ(石浜 忍、大野裕貴)
PCグループ(手賀 由成、海老沢 敬一、小坂光治、中村 洋一)
鋼橋グループ(庄司 裕一)
事務局(澤島 守夫、園部 武正)

計 18名

2. 討議結果

(1) 運営委員への連絡体制・会員への情報伝達について

- ・1ページに運営委員会開催連絡のためのアドレス(未回答9名)と本日の第2回運営委員会の出欠状況について掲載した。出欠は、文書で送付、Fax回答としたが、無回答の運営委員が半数以上いるので、引き続き連絡体制の強化に努める。
- ・名簿作成時にメールアドレスを報告してもらっている会員に、第1回運営委員会の配付資料並びに議事録をPDF形式で送付した。今後も各種行事案内についてEメールで送付することとする。

(2) (議題1) 建設フェスタの出展について

- ・液状化の出し物が、地質調査業協会と重複しているため、出展テントを隣り合わせとして関連させて行うこととする。
- ・地質調査業協会は、小型水槽に砂を入れた状況で振動させるもの、研究会は、ペットボトルで手軽に液状化を体験できるものとし、企画名称をaの(5)を一部修正して「ペットボトルでミニ液状化現象を体験してみよう」とする。3ページに概要を示す。
- ・GIS関連の出し物は、GPSカメラを利用してbの(2)の「私は地図のどこにいますか?」とする。
- ・動くバーチャル景観関連は、「新しい道路デザインの体験 - 圏央道の計画、都市軸道路 - 」とする。
- ・新全総分科会から、総会時に配布した「明日のふるさとづくり - いばらきの自然との共生を目指して - 」を100部ほど用意して配布する。
- ・会場スタッフについては、
10/29は、事務局から園部が現地確認を行う。
10/30当日は、研究会から、安原、桑原、伴、澤島、園部の5名、「動くバーチャル景観」の展示操作に景観工学研究所から大野、柴田の2名、茨城大学工学部学生のアルバイト4名で対応する。

(3) (議題2) 研究会のあり方の検討について

- ・会員アンケートによれば基本的には、継続を望む会員の割合が一番多かったため、研究会の活動を続けるものとするが、現在の組織体制を土木学会関東支部の茨城ランチとしての受け皿としての位置づけやNPOへの移行など何らかの変化を求めている会員も少なからずいるため、現状維持に甘んじることなく研究会の活動をより活発化するため、特に回答の多かった「土木学会関東支部茨城ランチ」としての活動を研究会の活動の一分野に据えることで活動の充実が図れないか検討を進めることとする。
- ・茨城ランチとしての取り組みと研究会の役割分担、行事等の係わりについて具体的にシナリオを作成して運営委員会や会員に提示してその是非について検討してもらうこととし、同時に土木学会関東支部というオフィシャル的な係わり会となるため、茨城県土木部としての対応も確認する必要があるため事務局で自治体グループの母胎となっている茨城県建設技術協会事務局並びに会長の意向を確認する必要がある。
- ・土木学会関東支部の栃木会、群馬会、山梨会、新潟会の設立経緯について調査する。
- ・安原会長が、8月5日に三浦土木部長と会見した際、このような産官学の取り組みは素晴らしいことであり、県に対しても是非提案できるようなことを考えてほしいとのコメントをいただいております。現在県道路維持課にも参加いただ

いて橋梁点検カルテの作成を行っている橋梁点検分科会の成果が期待されている。

また、他のグループとの連携を図るという意味で、5ページの「GIS総合研究所茨城」とのマイクロチップを活用した構造物の挙動追跡などの共同研究や共同発表会などの連携を強化することも必要であり、もっと活動状況のPRに努める必要もある。

(4)研究会のPR用パンフレット作成について

・現在バージョンアップ版を印刷会社に持ち込んでおり、10月30日の建設フェスタに配れるように準備している。

(5)その他

・次回の第3回運営委員会は、11月4日(金)午後3時から、開催場所は、今回と同じ茨城大学インフォメーションセンターとする。